

Contents

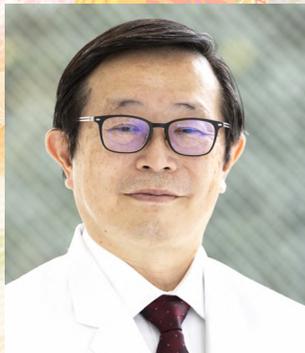
- ・新年のご挨拶
- ・PFM センターオープンに向け、病床管理システム設置
- ・診療科紹介
- ・1月就任教授のご紹介
- ・公開講演会
- ・年末年始の診療記録



編集：杏林大学医学部附属病院
杏林学園広報室
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel. 0422-47-5511(代表)



新年のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。旧年中は多くの患者さんをご紹介頂き大変お世話になりました。

30年ぶりによく診療報酬本体の3.09%引き上げが決まりましたが、それでも限られた医療資源を我々医療従事者が効率的に運用するためには施設間の役割分担、そしてそれを支えるシステムの強化がより一層重要になってまいります。当院の役割は多摩地域唯一の大学病院本院として研究・教育にも力を入れながら地域の高度急性期医療を担うことです。そのために、紹介受け入れ・救急医療強化、病床の効率的運用、逆紹介はじめ後方連携をより一層充実させるべく努めているところです。医療機関同士が顔の見える良好な関係の上で連携するシステムを一層推進してまいりたいと考えております。

当院の理念「あたたかい心のかよう、良質な医療を患者さんに提供します」を全職員が常に心にとめて診療にあたりますので、本年も皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

病院長 近藤晴彦

2026年4月のPFMセンターオープンに向け、病床管理システムが設置されました

PFM：予定入院患者の課題に関する情報を入院前の外来時点で収集し、スムーズな入院支援、入院医療の安全性と質の向上、病床の効率的な運用などを実現するものです。

当院では、2026年4月に予定しているPFM (Patient Flow Management) センターのオープンに向け、病床管理システム「コマンドセンター」を導入しました。これは、電子カルテ内のデータをリアルタイムに一元化・可視化するシステムで、迅速な意思決定を支援するものです。

今回導入したシステムは、各病棟等からヒアリングした課題をもとに当院仕様にカスタマイズしており、単なる空床情報の管理にとどまらず、患者さんの重症度や看護必要度、病棟の業務量や看護師のマンパワーなどのデータをリアルタイムに統合・可視化することで、以下のようなことが期待されます。

- ・スムーズな病床決定が可能になる
- ・緊急入院受け入れの優先順位が明確になり、納得性の高い判断ができる
- ・病棟間の協力体制が強化される

コマンドセンターの本格稼働により、院内連携はもちろん、地域の医療機関の先生方からの受け入れ要請に対しても迅速に対応できる体制を整えてまいります。このような仕組みを通じて、より多くの患者さんの受け入れにお応えできるように取り組みを進めていきます。今後も先生方との連携を深め、患者さんにとってより良い医療体制を築いていけるよう努めてまいります。



診療科紹介

上部消化管外科

当院の上部消化管外科は、内科的診断・治療から手術まで幅の広い診療を行っている数少ない外科施設として広く認知されており、消化器外科専門医・指導医、消化器内視鏡専門医・指導医、腹腔鏡外科技術認定医、ロボット支援下手術技術指導医、食道科認定医などの資格を有するスタッフを擁し、上部消化管領域疾患（特に食道・胃・十二指腸の腫瘍）の内視鏡的治療（切除、焼灼、ステント治療、光線力学療法）や胸腔鏡下/腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術を積極的に行っています。

特に胃癌診療では、当院は「日本胃癌学会認定施設 A」を取得しています。これは、病院としての「胃癌治療の総合力」に関する高いハードルをクリアした施設のみが認定されるものです。また、Common disease である鼠径部ヘルニアに対しても、低侵襲治療である腹腔鏡下手術を積極的に行っています。腸閉塞や急性虫垂炎、消化管穿孔などの腹部救急疾患は、下部消化管外科や肝胆膵外科と協力しながら昼夜を問わず可能な限り受け入れ、積極的に手術を行っています。今後も引き続き地域医療に貢献できるよう、一丸となって頑張る所存ですのでよろしくお願い申し上げます。



診療科長・教授
阿部 展次

・上部消化管領域の低侵襲治療（胸腔鏡下・腹腔鏡下・ロボット支援下手術、内視鏡治療）



外来医長・講師
竹内 弘久

・消化器外科
・消化器疾患の低侵襲治療（内視鏡治療、腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術）
・医療治療器具の開発



講師
大木 亜津子

・消化器外科
・胃癌に対する内視鏡治療、腹腔鏡手術



2026年1月就任教授のご紹介



腎臓・リウマチ膠原病内科
（臨床教授） 岸本 暢将

北里大学医学部卒業
順天堂大学医学研究科研究生終了 博士（医学）
日本で初期研修終了後、米国ハワイ大学およびニューヨーク大学で臨床研修、2006年帰国後は亀田総合病院、聖路加国際病院等を経て、2019年杏林大学医学部腎臓・リウマチ膠原病内科学教室着任

リウマチ・膠原病および腎疾患領域では、分子標的薬をはじめ治療が大きく進歩しています。新たな治療を積極的に臨床へ取り入れ、他診療科・多職種と連携した質の高い医療を提供するとともに、多摩地区医療の中核を担う大学病院として、教育・診療・研究に尽力してまいります。今後とも、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

イベント・公開講演会

日時・会場	テーマ・講師
2月11日（水・祝） 9:00～17:20 杏林大学医学部付属病院 外来棟 10階会議室	緩和ケア研修会 募集人員：36名（定員になり次第終了） 最終締切：令和8年1月30日（金） お申込み・詳細 
3月12日（木） 18:20～19:30 Web開催（Zoom使用）	NST講演会 「GLIM基準とリハビリテーション栄養」 座長：大浦紀彦 （形成外科・美容外科教授、NST委員長） 講師：前田圭介 （愛知医科大学栄養治療支援センター特任教授、 国立長寿医療研究センター 老年内科 客員研究員） 参加方法：事前登録制 お申込み 

年末年始の診療記録

2025年12月27日昼～2026年1月5日朝まで

患者数	1304人（内3次救急35人）
救急車台数	246台（内3次救急36台）

（内訳1・2次救急のみ）

診療科	救急総合	内科系	外科系	精神神経科	小児科	小児外科	脳神経外科	心臓血管外科	整形外科
患者数	478	124	24	4	92	12	31	7	78
診療科	皮膚科	形成外科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	産婦人科	SCU	放射線治療科	合計
患者数	32	58	34	93	55	30	19	98	1269

